

事業評価結果(課・室)総括表

事業年度 令和8年度

部局名 エネルギー環境部

所属名 自然環境課

(単位:千円)

事業名	福井県長期ビジョン における位置づけ	経費 区分	事業 開始 年度	事業 終了 年度	予算額	決算額	財源内訳			評価区分
							国庫	その他 特定 財源	一般	
コウノトリ飼育事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	平成22年度	令和10年度	11,221	—		11,221		継続
三方五湖・北潟湖自然再生事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和元年度	令和9年度	3,000	—		3,000		継続
三方湖のヒシ対策事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	平成30年度	令和9年度	7,966	—	4,779	1,593	1,594	縮減
「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	平成27年度	令和9年度	2,000	—		2,000		継続
実学研究の推進	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和元年度	令和10年度	6,602	—	210	6,392		継続
福井ふるさと学びの森がんばる里山里海湖応援プロジェクト	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和元年度	令和9年度	2,868	—		2,868		縮減
里山保全活動用資機材貸出事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和2年度	令和9年度	1,662	—		1,662		継続
生態系保全のための特定外来生物防除事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和6年度	令和8年度	1,500	—	1,500			継続
㊦指定管理鳥獣(ツキノワグマ)対策事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和6年度	令和13年度	100,638	—	74,743	25,474	421	拡充
㊧福井県レッドリスト改訂事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和8年度	令和11年度	11,388	—		11,388		—
年縞博物館特別展開催事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和元年度	令和8年度	2,661	—	1,330		1,331	継続
年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和7年度	令和8年度	3,514	—	1,457		2,057	縮減
海浜自然センター特別企画事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	平成27年度	令和8年度	1,932	—		1,932		継続
「山の日」全国大会開催事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和6年度	令和7年度		—				完了
					156,952		84,019	67,530	5,403	

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	平成22年度
コウノトリ飼育事業				事業終了年度	令和10年度
事業目的	本県の自然環境の保全・再生のシンボルとして、コウノトリの野外定着を推進することを目的に、越前市白山地区でコウノトリの飼育を継続するとともに、地域が取り組むコウノトリの生息環境づくりを支援する。				
事業内容	<p>（1）コウノトリの飼育 越前市白山地区において飼育を継続する。外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育を行う。</p> <p>（2）コウノトリ会議の開催 県内でのコウノトリの生息環境整備に向け、県や市町による対策等の情報共有、報告を行い、協議する。</p> <p>（3）コウノトリ定着推進支援補助事業 県内でコウノトリが定着できるよう、地域が取り組むコウノトリの生育環境づくりを支援する（市町対象の補助金） 補助率1/3（補助上限500千円）</p>				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,221	－		11,221	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	県内で生まれたヒナ数（匹）	2	12	令和7年度
	活動指標	巣塔・ビオトープ累計設置数（か所）	16	17	令和7年度
事業評価	<p>・ヒナの野外放出数について、成果指標を達成し、コウノトリの野外定着を推進した。</p> <p>・また、コウノトリの巣塔、ビオトープを累計17か所設置したことから活動指標は達成した。</p> <p><事業実績></p> <p>・ヒナの野外放出数 8ペア12羽（越前市、越前町、小浜市、鯖江市）</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和元年度
三方五湖・北潟湖自然再生事業				事業終了年度	令和 9年度
事業目的	三方五湖自然再生協議会および北潟湖自然再生協議会において、協議会の全体構想に基づき、地元市町や地域住民、農漁業者、研究者および行政機関が協働し、自然再生活動を推進していく。				
事業内容	<p>（1）あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が協働して北潟湖の自然環境の保全、再生、活用を実施 負担金対象者 北潟湖自然再生協議会 負担金額 1,000千円（事業総額4,000千円（国1/2、件1/4、あわら市1/4）） 活動内容 北潟湖自然再生協議会全体会の開催、北潟湖自然再生実施計画の実施 水質改善、外来種駆除と希少な水棲昆虫の保全、小学生を対象とした環境学習の推進等</p> <p>（2）三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然環境の保全、再生、活用を実施 負担金対象者 三方五湖自然再生協議会 負担金額 2,000千円（事業総額8,000千円（国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8）） 活動内容 三方五湖自然再生協議会全体会の開催、自然護岸再生、外来種対策、濁水防止のための普及啓発、水田養魚による地元産のフナ・コイの増殖、子どもラムサール（環境教育）の推進等</p>				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,000	－		3,000	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	協議会の開催（回）	3	3	令和7年度
	活動指標	自然再生活動数（協議会の部会開催数）（回）	18	25	令和7年度
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> 各協議会で全体会を計3回開催し、成果指標を達成したことにより協議会の活動を推進した。 自然再生協議会の部会は25回実施し、活動指標を達成した。 <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然再生の取組に向けた関係者間の情報共有、協議等を実施 				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	平成30年度
三方湖のヒシ対策事業				事業終了年度	令和 9年度
事業目的	三方湖におけるヒシの発生に伴い、ヒシ群落内における水中の貧酸素化による生態系への悪影響や、漁業のための航路障害、湖辺に堆積するヒシの枯死体から発せられる悪臭などの社会的問題、湖景観の悪化等に対応するため、ヒシの低密度化に向けた抜取り等を実施する。				
事業内容	<p>（1）ワイヤー抜取り・刈取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期：5～7月 ・ヒシの発生、繁茂状況を予測、確認し、ヒシの葉が湖面を覆う前に発芽区域全体で抜取り、刈取りを行う。 ・漁船に装着したワイヤーを引きながら、水深1～2mで葉が水面に出てくる前の若いヒシの茎を抜取る。 <p>（2）ヒシの回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜取りや刈取りをしたヒシのうち、漂流し漁業等に支障をもたらすヒシは回収し、陸揚げして処分する。 <p>（3）ヒシの発生、繁茂状況等のモニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒシの抜取り等による湖環境への影響・効果を確認する。 				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	7,966	－	4,779	1,593	1,594
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	ヒシ繁茂面積 (ha)	34	0	令和7年度
	活動指標	ヒシ抜取り面積 (ha)	68	68	令和7年度
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標・活動指標ともに達成し、三方湖の環境改善に努めた。 ・一方で、繁茂の度合いはその年の湖の環境条件（塩分濃度等）にも影響されるため、継続したモニタリングが必要。 <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は令和5～6年度に引き続き、過去の年度に比べてヒシの量が少なかったが、湖岸沿いのエリアで局所的に繁茂しているヒシの抜取りを進めた。 				
区分	縮減				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	平成27年度
「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業				事業終了年度	令和 9年度
事業目的	地域と小学校が協働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが地域の自然再生団体とともに継続的に身近な生きものの調査・保全活動を行い、絶滅の恐れのある生物の保全と若い世代の教育を目指す。				
事業内容	<p>（1）地域の宝となる希少な生物（県絶滅危惧種）を含む生き物の調査と保全について、地元 の自然再生団体の協力を得なければ継続的に実施することが困難な活動を対象</p> <p>（2）支援内容</p> <p>○補助対象 自然再生団体 10団体</p> <p>○補助内容 ・身近な生き物調査と保全活動および小学校での観察会の開催経費 ・生きもの観察調査資機材への助成 ・生き物の生息環境整備に必要な資機材</p>				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,000	－		2,000	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	参加児童数（人）	350	307	令和7年度
	活動指標	支援団体数（件）	10	7	令和7年度
事業評価	<p>・令和8年2月末時点の実績であるが、成果指標、活動指標ともに達成しない見込み。 <外的要因></p> <p>・他団体においても事業実施の希望はあるものの、学校行事との日程調整の兼ね合いや高齢化などによる団体の担い手不足等が原因で、最終的に実施を断念する団体があったため。</p> <p><事業実績></p> <p>・7団体に対し支援を行い、各自然再生団体の活動の活性化および児童の生物保全意識の高揚を図った。</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和元年度
実学研究の推進				事業終了年度	令和10年度
事業目的	年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの継承につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。				
事業内容	<p>・研究者4名が、以下の各分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。</p> <p>【環境考古】 年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を推進</p> <p>【保全生態】 里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</p> <p>【森里川海連環】 里海湖の原風景と利活用の歴史を明らかにし、保全・再生活動に結び付けるための研究</p> <p>【里地里山文化】 里に伝わる伝統（農法、漁法等）、文化、習俗等の資料を収集、活用して、県民の生活や里山里海湖の資源を生かした経済活動につなげる研究</p>				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,602	－	210	6,392	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	－	－	－	
	活動指標	研究テーマ数（件）	4	4	令和7年度
事業評価	<p>・研究期間が5年間となっているため、年度毎に研究成果を数値化することは困難。</p> <p><事業実績></p> <p>・研究者4名が「環境考古」「保全生態」「森里川海連環」「里地里山文化」についてそれぞれ研究を行っており、活動指標を達成した。今後も成果が出るように引き続き事業を継続する。</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和元年度
福井ふるさと学びの森がんばる里山里海湖応援プロジェクト				事業終了年度	令和9年度
事業目的	福井ふるさと学びの森・海湖における体験活動を通して、人の暮らしと里山・里海湖との関わりや森と海湖のつながりを学ぶ機会を提供し、県民の里山里海湖保全の意識醸成につなげる。				
事業内容	<p>（1）福井ふるさと学びの森・海湖ネットワーク事業 福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の活動内容のレベルアップを図り、県内外での集客力を高めることで、森と海湖のつながりを学べる環境づくりを推進する。</p> <p>①県内外への情報発信 ②安全性の向上のための合同研修会兼情報交換会を開催：学びの森・海湖団体で合同開催（隔年1回）</p> <p>（2）福井ふるさと学びの森・海湖活性化プロジェクト 登録団体の活動を活性化させるため、体験会を開催</p>				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,868	－		2,868	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	学びの森海湖活性化プロジェクト参加者数（人）	10	9	令和7年度
	活動指標	ネットワーク事業の開催数（回）	1	1	令和7年度
事業評価	・活性化プロジェクトを2団体で開催したが、成果指標は目標を下回った。 <外的要因>参加者のうち1名が都合によりキャンセルとなったため。 <事業実績> ・ネットワーク事業を福井市内で開催（2月）。				
区分	縮減				

		エネルギー環境部	自然環境課（工ネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和2年度
里山保全活動用資機材貸出事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	県内の里山の保全・再生活動に取り組んでいる方を対象に、継続して里山保全活動用資機材の貸出しを行い、里山保全活動者の利便性を向上させ、県内の人の手が入らなくなり荒廃が進む里山の保全・再生および資源利用の推進を図る。				
事業内容	県内3地区で貸出業務を実施 ○貸出拠点 3ヶ所（福井地区、丹南地区、嶺南地区）で貸出 ・福井地区、丹南地区は委託により実施、嶺南地区は直営で実施 ○貸出資機材（現状） 福井地区 ウッドチップパー 2台、薪割機 2台、炭化炉 4台 丹南地区 // 1台、 // 1台 嶺南地区 // 1台、 // 1台、炭化炉 2台				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,662	-		1,662	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	貸出回数（回）	60	57	令和7年度
	活動指標	貸出拠点数（か所）	3	3	令和7年度
事業評価	貸出回数は3月の予約を含めると成果指標を達成する見込みであり、里山の保全・再生を促進した。 <事業実績> 令和8年2月時点：57回、3月貸出見込：13回 計70回				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（工ネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和6年度
生態系保全のための特定外来生物防除事業				事業終了年度	令和8年度
事業目的	特定外来生物の侵入・個体数増加によって希少種の生息環境に重大な影響が及んでいる場所について、特定外来生物の防除等を行い、生態系の保全につなげる。				
事業内容	特定外来生物の防除の実施 (1) 防除実施場所：坂井市内 対象となる特定外来生物：アメリカザリガニ 実施内容：小規模な水系において、捕獲装置と水抜き等を組み合わせた捕獲・防除を行う (2) 防除実施場所：越前町内 対象となる特定外来生物：アメリカザリガニ 実施内容：閉鎖水系において、水抜き等を行うことで捕獲・防除を行う				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,500	－	1,500		
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	事業実施地域で確認される希少種数（種）	2	2	令和7年度
	活動指標	取組地域数（か所）	2	2	令和7年度
事業評価	・それぞれの地域において重要な希少種を1種ずつ確認できており、活動指標および成果指標を達成したことにより生態系の保全につながった。 <事業実績> ・令和7年度は2地域にて取り組んでおり、各希少種が特定外来生物の影響を受けて個体数を減らさないように、引き続き防除等に取り組む。				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和6年度
㊦ 指定管理鳥獣（ツキノワグマ）対策事業				事業終了年度	令和13年度
事業目的	ツキノワグマによる人身被害防止のため、県が捕獲事業やクマ対策専門員の配置、県民への情報提供等を実施するとともに、市町による捕獲や出没防止対策、緊急銃猟の実施等を総合的に支援する。				
事業内容	<p>(1) 指定管理鳥獣捕獲等事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が定めた重点管理区域1か所において、個体数を減らすための計画的な捕獲を実施 <p>(2) クマ対策専門員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマ対策専門員2名を雇用し、日常的な出没防止対策や捕獲等に加え、緊急的な出没に対応 <p>(3) 市町によるクマ総合対策・人材育成等支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町が行う個体数を減らすための計画的な捕獲や出没防止対策出没対応訓練、対応マニュアル作成、人材育成等を支援 ・はこわなによる捕獲技術や体制強化のためのアドバイザーを各市町に派遣 ・県内統一の日当単価を設定し、緊急銃猟実施に要する経費（日当、保険料等）を支援 <p>(4) クマ出没対応体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出没現場でのクマ搜索を安全かつ迅速に行うため、ドローンを活用する体制を構築 <p>(5) 緊急銃猟従事者射撃研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外射撃場において、従事者の銃銃（ライフル銃・散弾銃）での射撃技術向上研修を開催 <p>(6) 県民への注意喚起強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツキノワグマ出没情報収集配信システムを運営 ・人身被害を防ぐための注意喚起を新聞広告で掲出（2社、年4回） <p>(7) 次期特定鳥獣管理計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期特定鳥獣管理計画（R9～13）策定に必要なワーキンググループ・検討委員会の開催 				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	100,638	—	74,743	25,474	421
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	人の生活圏内の被害者数（人）	0	2	令和7年度
	活動指標	緊急銃猟射撃研修参加者数（人）	68	72	令和7年度
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生活圏内において2件2名の人身被害が発生したため、成果指標は達成できなかった。 <p><外的要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・堅果類の不作に伴い、9月末以降大量出没が発生したため。 （4～8月：382件、9月～2月：564件） <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動標的の射撃や検定が可能な県外射撃場において射撃研修を3回開催（72名参加） ・県が定めた管理強化区域において、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施（実績：7頭）等 				
区分	拡充				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和8年度
⑧ 福井県レッドリスト改訂事業				事業終了年度	令和11年度
事業目的	福井県レッドデータブックの前回改訂後約10年が経過したため、自然環境の変化に伴う絶滅危惧種の現状を反映させたレッドリストの改訂作業を実施する。				
事業内容	(1) 文献・現地調査およびデータ収集・整理 ・現在のレッドデータブック作成以降の変化について現状調査を行う。 (2) レッドリスト改訂検討委員会および同作業部会の開催 ・委員会において、改訂作業の進め方やリスト案の作成等を行う。				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,388	－		11,388	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	レッドリストの改訂（回）	1		令和11年度
	活動指標	改訂に向けた作業部会開催数（回）	10		令和8年度
事業評価					
区分	－				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和元年度
年縞博物館特別展開催事業				事業終了年度	令和8年度
事業目的	年縞博物館の認知度をさらに高め、また、水月湖年縞および年縞研究の重要性について理解を深めてもらうため、特別展を実施し、年縞博物館への誘客を図る。				
事業内容	(1) 特別展の開催 テーマ：「カヤネズミは見ていた－水月湖の年縞に刻まれるもの」（仮） 時期：令和8年8月上旬～10月上旬（予定） (2) 記念シンポジウムの実施（特別展期間中） テーマ：「三方五湖の湖中の環境を探る」（仮） 講師：坂田雅之（北海道大学助教）、吉田丈人（東京大学教授）、 近藤竜二（福井県立大学教授）、中川毅（立命館大学教授） 日時：令和8年9月5日（土）（仮）				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,661	－	1,330		1,331
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	特別展期間中の来館者数（人）	10,000	14,914	令和7年度
	活動指標	特別展開催回数（回）	1	1	令和7年度
事業評価	・令和8年1月時点で目標来館者数を上回り、成果指標および活動指標を達成したことにより年縞博物館への誘客に寄与した。 <事業実績> ・令和7年度は6月から実施した新たな掘削をテーマに特別展と記念シンポジウムを開催し、73人が参加した。 ・年縞博物館では、掘削の様子や掘削方法の記録を写真と動画で展示するとともに、掘削で採取したサンプルをはじめとした年縞の実物資料についても、分かりやすい解説とあわせ展示した。また、縄文博物館において、実際に利用した道具とプレハブの研究室を再現し、両館連携して開催した。				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和 7年度
年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業				事業終了年度	令和 8年度
事業目的	立命館大学等が進める新たな年縞研究の成果を展示等に反映していくことにより、年縞博物館の魅力を高め、来館者の増加を図る。				
事業内容	(1) 年縞関連イベントの実施 ・サイエンスカフェや研究者による博物館ガイドツアー等を実施 (2) 情報発信・展示の充実 ・最新の研究成果を展示に反映 (3) 教育・団体旅行の誘致 ・首都圏等への誘致活動等を実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,514	－	1,457		2,057
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	入館者数（人）	60,000	48,145	令和7年度
	活動指標	特別ツアーの実施（回）	1	1	令和7年度
事業評価	・令和8年1月末時点で入館者数は48,145人であり、成果指標は達成しない見込み。 <外的要因> 寒波の影響で冬季の団体予約のキャンセルが相次いだため。 <事業実績> ・恐竜博物館と連携した、恐竜と年縞を巡る歴史と地層の特別ツアーを立命館大学の中川教授の解説付きで実施し、参加者から高評価を得た。また、年縞掘削開始にあわせたオープニング記念式典の開催や周辺施設とのコラボイベント、科学メディア関係者の取材支援(3社)等を行うことで年縞博物館のPRおよび魅力向上を図った。				
区分	縮減				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和 8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	平成27年度
海浜自然センター特別企画事業				事業終了年度	令和 8年度
事業目的	「福井の海湖（うみ）を感じよう！」をテーマとした特別企画を開催し、県内外の来館者に対し福井の海湖への親しみや環境保全・資源保護の意識高揚、海産物資源の活用促進を図る。				
事業内容	<p>（1）学ぼう！福井の海湖（うみ）イベント（9月19日（土）・20日（日））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若狭地域に生息する生体の観察を通して、福井の海湖に対する関心と認識を高める。 ・回収した漂着物を使ったアート作品にリサイクルする講座を通して、環境保全の意識を高める。 ・磯観察やクラゲへのエサやり体験を通して、若狭湾の多様な生きものに対する関心と認識を高める。 ・魚つかみ、あさりつまみの体験を通して、漁業資源保護に対する意識の醸成と魚介類の消費拡大を促進する。 <p>（2）考えよう！福井の海湖（うみ）イベント（3月6日（土）・7日（日））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設されていない生体や標本の展示を通して、海の生きものや自然環境に対する関心を高める。 ・海湖の環境保全や資源活用等の研究者を講師とした講演会やクイズ大会を開催し、資源保護や環境保全の意識を高める。 ・若狭湾で採れる貝殻や海藻、ビーチグラス等を使ったクラフト工作を行い、環境保全の意識を高める。 				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,932	－		1,932	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	イベント来館者数（人）	5,000	3,067	令和7年度
	活動指標	インスタグラム投稿数（回）	30	38	令和7年度
事業評価	<p>・令和8年2月末実績で3,067人来館し、3月実施予定の春のイベントで成果指標を達成する見込みであり、環境保全や資源保護等の意識醸成につながった。</p> <p>・活動指標では、2月時点で38回投稿し、目標を達成した。</p> <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯観察、鯛つかみ、クラゲ観察、〇×クイズ、生体展示など多彩な体験メニューを実施（夏イベント） ・インスタグラムで講座やイベント、館内展示等の紹介を行い、施設の魅力を発信し来館を促した。 				
区分	継続				

		エネルギー環境部	自然環境課（エネ部）	事業年度	令和7年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和6年度
「山の日」全国大会開催事業				事業終了年度	令和7年度
事業目的	「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という国民の祝日「山の日」の趣旨の浸透を図るとともに、山に関する歴史や文化の継承、環境保全、観光振興や健康増進など様々な課題の解決や「山の未来」のあり方について考える機会とするため、第9回「山の日」全国大会を開催する。				
事業内容	(1) 実行委員会、運営委員会の開催 (2) 第9回「山の日」全国大会の開催 8月10日（日）：歓迎レセプション、歓迎フェスティバル 8月11日（月・祝）：記念式典、歓迎フェスティバル その他（春～秋）：記念登山、オプションツアー				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	20,483	－		20,483	
事業評価指標		内 容	目標	実績	備考
	成果指標	第9回「山の日」全国大会の来場者数（関連イベント含む）（延べ人数）	4,000	10,357	令和7年度
	活動指標	第9回「山の日」全国大会の開催（回）	1	1	令和7年度
事業評価	8/10・11の大雨により歓迎フェスティバルの集客に苦戦したものの、成果指標を達成した。記念式典等を通して、祝日「山の日」の趣旨とともに本県の山の魅力や豊かな恵み等を広く発信した。 <事業実績> ・プレイベント（R7/5/10開催） 参加者数：約700人 ・トレイルウォーク（R7/4/27・29、5/11、7/26-27開催） 参加者数：約410人 ・オプションツアー（R7/8/10開催） 参加者数：24人 ・歓迎レセプション（R7/8/10開催） 参加者数：128人 ・記念式典（R7/8/11開催） 参加者数：557人 ・歓迎フェスティバル（R7/8/10-11開催） 参加者数：1,538人 ・関連イベント等 参加者数：約7,000人				
区分	完了				